

令和3年度「未来を創る学力向上支援事業」に係る
未来を創る授業力向上協議会（社会）

1. 目的

- 各中学校及び義務教育学校後期課程の社会科担当教員等を対象に、学習指導要領を踏まえた授業づくりに関する説明・講義等を行うことにより、社会科教員の授業力向上に資する。

2. 主催 大分県教育委員会

3. 期日 令和3年10月7日（木）13：30～16：20

4. 場所 コンパルホール（多目的ホール）

5. 内容

① 行政説明 「新学習指導要領の趣旨を実現する授業づくりと学習評価」

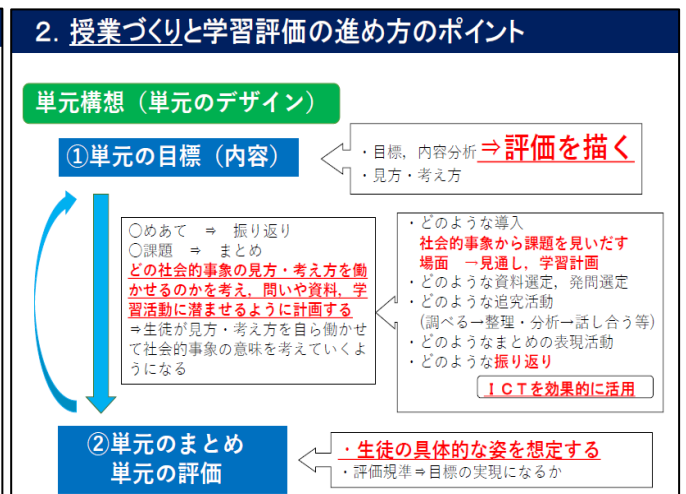
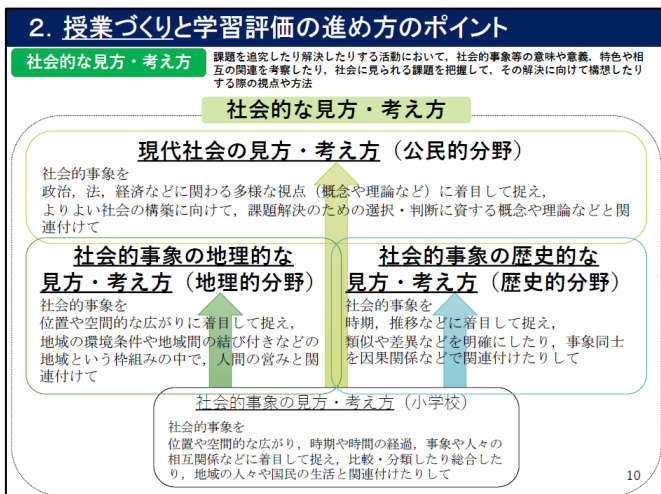
＜説明者＞大分県教育庁義務教育課 指導主事 吉住 聡

■授業づくりのポイント（令和3年度教育課程研究協議会 社会科部会 改善の重点）

- ① 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」と、自らの生活を見つめ直したり社会生活に生かしたりすることができる「振り返り」を設定すること。
 - ② 「課題」と「まとめ」を設定し、社会の中で使える応用性や汎用性のある概念などに関する知識を獲得できる問題解決的な学習展開を工夫すること。
- 学習指導要領が求める授業改善は、新大分スタンダードに示された「めあて」、「課題」、「まとめ」、「振り返り」を授業の中に効果的に位置付け、問題解決的な学習を展開していく授業改善と重なる。

■授業づくりのポイント（令和3年度教育課程研究協議会 社会科部会 実践の留意点の整理）

- ① 学習対象にする関心を高め問題意識もたせる。
→ 予想したり学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討する場面の充実を図る。
- ② 学習したことを振り返り学習成果を吟味したり新たな課題を見いだしたりする。
→ 学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりする場面の充実を図る。
- ③ 課題の設定や発問の構成、地図や年表、統計など各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する活動を工夫する。
- ④ 生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かす。



② 講義「社会科における『指導と評価』の一体化のための学習指導と学習評価」

＜講師＞文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤野 敦 氏

■どのような授業が見えてくるのか（例：資料の活用と理解）

教師の説明のエビデンス：「このことはこの資料からわかりますね。」

「資料〇を見てください。このように〇〇ですね」

- 教師が説明することがらを生徒に資料として示す。

⇒（教師の文脈で進行）＜資料→解説→資料→……＞単線的

（生徒の問題意識、主体的課題意識は生まれにくい。「活用」がみられない）

課題（問い）：「この資料からわかることは何だろうか。」「2つの資料から何が言えるだろうか」

資料から生徒が抽出できることについて、教師が展開を考える ⇒（生徒の文脈で進行）

- 資料を生徒が「どのように見て」「解釈をして」（「見方、考え方」を働かせて）対話。
- 「考察し、理解」「資料を活用」するプロセスが存在する→→結果的に知識が「身に付く」

■視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例

- ・いつ（どこで、誰によって）おこったか
- ・前の時代とどのように変わったか
- ・どのような時代だったか
- ・なぜ起こったの（何のために行われた）か
- ・どのような影響を及ぼしたのか
- ・なぜ、そのような判断をしたと考えられるか
- ・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか



■授業計画の留意点（単元を踏まえた学習計画）

- ・生徒が単元の学習の見通しをもつ。
- ・資料をどのように活用するか。
- ・個別(事實的)な知識を、⇒視点を踏まえて考察し、概念的な知識に高めて理解を深めていくか。
→それをどのような課題（問い）で実現するか
生徒が「見方・考え方」を働かせて考察・理解することができる学習課題(問い)の設定
- ・学んだことの意味をどのように生徒が捉えるか(振り返り)

■教師の留意点（主体的、対話的で深い学びに向けて）

- ・生徒の現状の課題や「どのような力を身に付ける」かについてのねらいを教師間で共有
(一年間、三年間を見据えたの学習計画)

＜単元設計を踏まえた指導計画＞

教科目標 → 分野目標 → 中項目のねらい

→ 小単元的设计 → 各次や各時の計画